

15 古典(1) (P 60～63)

確認問題

1 (1) A くわえて B ゆえ

(2) (例) 水に映った肉の方が大きく見えた

(3) ① 犬 ② 肉

(4) そのごとく

(5) ウ

解説

(1) A 歴史的かなづかいの語頭・助詞以外のハ行は、現代かなづかいのワ行に直します。

B 現代の仮名にはない「ゐ」「ゑ」は「い」「え」になります。

(2) 傍線部の「これ」「かれ」という指示語の指している内容をまずとらえましょう。犬が「これ(＝自分がくわえている肉)を捨ててかれ(＝水に映った肉)を」取ろうとした理由を書きましょう。

(3) 犬は、水面に映っている犬(肉をくわえている自分の姿)をおどそうとして、ワンとほえたのでしょう。そのためにくわえていた肉が水に落ちたということが考えられます。

(5) 「重欲心の輩」はたちまち天罰を受けるという後半部分の内容から、これにあてはまる教訓を選びましょう。

2

(1) 家書万金に抵る

(2) 頭を低れて故郷を思ふ

(3) 馬を走らせて西来天に到らんと欲す

解説

(1) 「家書」には返り点がないので、そのまま読み、「二」の「抵る」は、「二」の「万金に」のあとに続きます。

(2) レ点と一・二点の両方があるので注意しましょう。

(3) レ点が続く部分の順番に注意しましょう。

解法のポイント 確認問題 1

！~~~~~！：キーワード・重要表現 .. 語句チェック

単元のテーマ 細部まで読み取る

ある犬^が、肉をA^(くわえて)くはへて河を渡る。

犬が肉をくわえて河を渡っていた。

まん中ほどにて、

河の真ん中ほどで、

その影^が、水に映りて大きに見えければ、
「見えたならば」という仮定の意味ではない。

肉の影が水面に映って大きく見えたので
原因・理由

「わが^(くわえて)はふる所の肉より大きなる」と心得て、

「私のくわえている肉より大きい」と思い、

1 これを捨てて

くわえている肉を捨てて

かれを取らんとす。
「取らない」という否定の意味ではない。

水面に映った肉を取ろうとした。
意志

かかるがB^(ゆえ)ゆゑに、

このような軽率な考えのために

二つながらこれを^(失う)失ふ。

両方の肉を失ってしまったのである。

そのごとく、重欲心^(とよぶ心)の輩^(たぐひ)は、

同じように、非常に欲張りな人は、

他の財をうらやみ、

他人の財産をうらやみ

事にふれてむさぼるほどに、

何につけてもむさぼってしまうと、

たちまち天罰^(てんばつ)をかうむる。

たちまち天罰を受ける。

わが持つ所の財をも失^(失う)ふ事ありけり。

自分の財産をも失うことがあったそうだ。

〈伊曾保物語 〉より〉

【教訓】

他人の財産をうらやんだりして、欲にはおぼれてはいけない。

語句チェック

《古語の表現》

かれ：現代語と違い、ものに対しても用いる。「あれ・あのもの」と訳す。

けり：過去を表す助動詞。「くた。くだつた。くだつたそうだ」と訳す。

教訓